

新たな飛躍へ 創造と挑戦

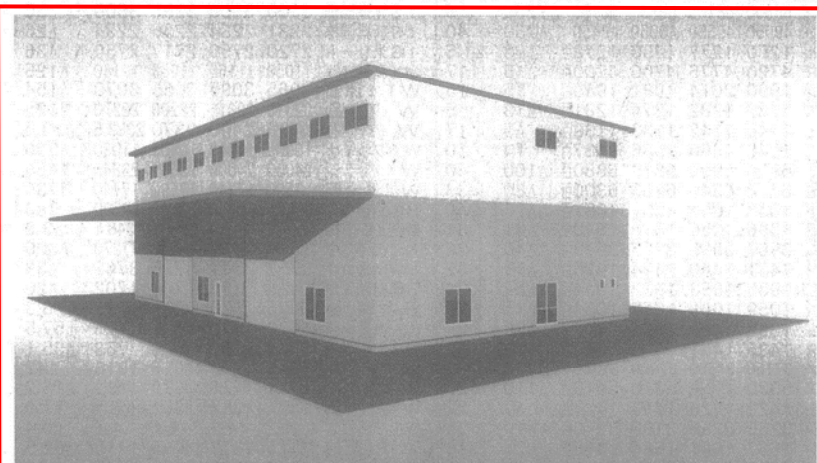


稼働を始めたタカオカメガの新社

感染症や戦争などの活況により、THK製の自動機器の受注が伸びてきたが、商品を検査する際の作業所が狭小なため、今問題だ。そうした中で、新たに産業用ロボットの画像処理装置などを使った同機器用の自動検査ラインを整備。生産性を高め、受注の増加に対応した。タカオカメガ（射水市）は7月4日、市内にある七美工業団地で倉庫として利用していた業務を開始した。「七美マシンセンタ」同社は機械商社で、本社の隣接地に建設。移転後は主力商材であるTHK製の自動機器（温室内の需要増に対応する）の自動検査ラインへの対応も進めておける。自動検査ラインの整備は、同社が持つフォークリフトを全てバッテリー式に切り替えた。同社は半導体業界の加えて、数年後をめ



山口技研の新工場は、生産ライン向け自動化設備の組み立て専用



エムダイヤはコトづくりの拠点として立山第一工場を運用する

新工場は本社工場の隣に建設した。平屋建てで延べ床面積493平方メートル。長さ約25メートル、高さ約5メートルの自動化設備の組み立てまで対応できる。エムダイヤ（滑川市）は、富山県立山町に新工場を建設する。22年内に建屋が完成し、23年から「立山第一工場」として本格稼働する。土地と建物、機械などの設備を含めた投資額は約2億円。独自技術でリサイクル用機械を製造する「モノづくり」に加え、近年力を入れている「コトづくり」の拠点として運用し、事業の幅を広げる。立山第一工場は北陸自動車道の立山インターチェンジ近くに立地し、敷地面積は約1920平方メートル。3階建ての高さで内部は吹き抜け構造。延べ床面積は約490平方メートル。最先端の設備を導入する。稼働に合わせて人員も2人ほど増やす。主にリサイクルの輪を上げる「コトづくり」の拠点として運用し、新しいビジネスモデルを加速させる。同社が20年に始めた電線メーカーとリサイクル会社の間でアルミニウム電線をアルミ原料に再資源化する仕事を仲介する事業や、22年に始めた使用済みの自社製リサイクル機械を修繕して再生する「アップサイクル」事業を本格化する。需要増が期待される樹脂関連や電子基板関連のリサイクル機械の開発・製造、自社開発のIoT（モノのインターネット）機器の実証実験を進める。富山県内の企業は設備投資や新規事業への参入など、前向きな姿勢で成長戦略を練っている。

攻めの姿勢で難局乗り越え 工場新設、新事業展開で勢い

日刊
THE NIKKAN
工業
KOGYO SHIMBUN
新聞

7月20日 水曜日

2022年（令和4年）

組み立て専用とするこ

とで清浄度を保ち、半

導体や食品といった分

野の仕事も取り込む。

これまでの機械加工

と同設備の組み立ての

両方を本社工場内で行

っていたため、スペー

スが手狭になっていた

た。特に大型に対応す

るには広さや天井の高

さが足りなかった。ま

た、清浄度の観点から

も機械加工と同じエリ

アで組み立てを行うこ

とに課題があった。

従来は精密機械加工

を専門にしていたが、

人手不足による生産ラ

インの自動化ニーズが

増える予想。20年に

自動化設備の設計製作

事業へ進出した。設計

から製作、組み立てと

調整、据え付けまでト

ータルで対応してい

る。現在、同設備の設

計製作事業は5人体制

だが、今後、人員も増

やし、ハードとソフト

の両面から同事業の対

応能力を高める。

エムダイヤ（滑川

市）は、富山県立山町

に新工場を建設する。

22年内に建屋が完成

し、23年から「立山第

一工場」として本格稼

働する。土地と建物、

機械などの設備を含め

た投資額は約2億円。

独自技術でリサイクル

用機械を製造する「モ

ノづくり」に加え、近

年力を入れている「コ

トづくり」の拠点とし

て運用し、事業の幅を